

科目名	地域産業論				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	森 文雄				
内容および計画	<p>地域は人や産業、文化の集積によって構成されている。産業は地域形成にとって重要な一部分を担っていることから、地域から産業を、産業から地域を観察していく。ところが、様々な技術革新により、地域にも産業にも変化が生じている。よって、都市と地方の地域間の格差がますます拡大し、過密と過疎の問題が深刻な地域課題となっている。海外を含む異なる地域を広範囲に取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきかについて考えることをテーマとする。</p> <p>加えて、それぞれの地域と産業についての理解を深めることは、学生諸君が将来の進路を選択する上で重要な判断材料を提供する。すなわち、地域産業論の研究は、就業する産業分野と生活する居住地を決め、選択することに関連するからである。本講義では、基本的な地域と産業の関係の整理から、新しい概念としての地域と産業について、一方的な聴講スタイルの講義ではなく、インタラクティブに見識を広げていく。</p>				
1	自己紹介、成績評価方法の説明、受講の方法について。日本国内はどこも同じか？ 地域とは何か？地域活性化とは何か？？本の地域構造について学ぶ				
2	なぜいま地?創?なのか？ なぜ地?都市や農村部は??が減少している のか？ 集落消滅や地域の持続可能性について学ぶ				
3	都市の魅?とはなにか?都市に集積する外部経済効果 「都市集積の経済」について 学ぶ。過密の弊害とはなにか?なぜ企業が集まってくるのか?なぜ?分けして?産するのか?較優位と分業の効果である「地域特化の経済」および産業集積の衰退と再?について 学ぶ				
4	都会と地?のどちらが良いのか？ 地方に住む魅力とは？ グループワークを通じて、卒業後の?活場所を考える 暮らしのセーフティネットとは				
5	農山村の新たな動き : 集落営農と農業法人、直売所の運営形態、農業の六次化事業、棚田オーナー制度、地域おこし協力隊				
6	中国地方及び島根県の過疎地域振興対策：行政と NPO 法人の連携				
7	なぜいま地場産業なのか？ 地場産業の活性化について学ぶ 民芸運動と用の美の及び和風文化の再評価				
8	なぜいまコンパクトシティなのか？ 高齢化の進行と まちづくりと商業の再?戦略について学ぶ				
9	地?分権による地域再?につ いて国際的な視点から学ぶ 田園回帰の動きの将来性 コロナ禍後の社会動向				
10	なぜコト消費・モノ消費・トキ消費 なのか？ 経済の成熟化と観光産業の関係及び地域産業のツーリズム化について学ぶ				
11	なぜいまインバウンド観光なのか？ 経済グローバル化のプラス面とマイナス面が及ぼす地域産業への影響				
12	産業観光の考え方とは？ 日本の代表的なまちづくりと伝統文化を活用した産業観光の振興と優位性				
13	イタリアの歴史と経済の構造およびまちづくりと地域産業の強み イタリアブランドとイタリア観光の競争力				
14	イタリアクレモナ市のバイオリン産業における競争優位の源泉 イタリアのモノづくりの心				
15	地域おこしの実際例に学ぶ：活性化できる地域・活性化できない地域・活性化しようとならない地域 定期考査の予告説明				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

教科書の指定はしない。 パワーポイントのスライドや板書及び説明の量が多いので、ノートをしっかり取ることが、レジュメの作成や定期考査の準備のために必要である。板書を表面的に書き写すのではなく、思考過程がわかるようにノートを整理する

ことが望ましい。	
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樋口一洋・白井信雄『サステイナブル地域論』中央経済社、中央経済社、2015年。</li> <li>・長山宗弘『先進事例で学ぶ地域経済論/中小企業論』ミネルヴァ書房、2020。</li> <li>・関 満博『6次産業化と中山間地域: 日本の未来を先取る高知地域産業の挑戦』新評論、2014。</li> <li>・関 満博, 酒本 宏(編)『増補版 道の駅/地域産業振興と交流の拠点』新評論 2016。</li> <li>・関 満博・松永桂子(編)『「村」の集落ビジネスー中山間地域の「自立」と「産業化」』新評論、2010。</li> <li>・大森 彌・小田切徳美・藤山浩『世界の田園回帰』農文協、2017年。</li> </ul>
<b>成績評価</b>	
	<b>評価方法</b>
	<b>割合(%)</b>
定期考査は記述式とする。16回目の講義にて実施する。	60
レジュメには感想と質問事項を記載する	30
受講態度と出席状況	10
定期考査は用語と論点についての理解度と問題意識を問う。レジュメは記載内容の質的レベルを評価する。すなわち、毎時、授業の感想及び質問事項をレジュメに記述して提出する。次回の講義時に適切な質問に対して回答を行うことによって、問題意識と議論を深める双方向的な講義とするためのレジュメである。	
<b>学習到達目標</b>	製造業、農業、流通業、観光業やまちづくりなど、現代の地域産業の実態や理論及び政策課題について、一定程度以上の理解と問題意識を得ることを到達目標とする。同時に、レジュメ及び定期考査の記述によって日本語の語彙力と文章記述能力の向上を図る
<b>先修条件</b>	
<b>実務経験</b>	まちづくり、地場産業、農業問題及び過疎対策に関する実務経験あり。1. 会津七日町通りまちなみ協議会顧問(2001年~2012年)として、ゼミの研究テーマとして七日町通りの実態調査と提言の指導を二度にわたり行った。2. 福島県の研究奨励助成金を用いてイタリアの地域産業とまちづくりについて現地調査を行った。3. 地場産業若手担い手育成事業「会津若松市寺子屋方丈舎」での講演と作品展示会の指導4. 会津農林事務所農業六次化事業「あいづまるごとネット」の総合アドバイザーとして、商品開発の支援を行っている(2011年~現在迄)。5. 農山村の過疎対策として棚田オーナー制度の立ち上げと運営指導を会津地方5地域で行っている。
<b>その他</b>	レジュメの未提出は欠席扱いとする。